

平成22年4月20日現在

研究種目：基盤（A）
研究期間：2007～2010
課題番号：19251012
研究課題名（和文） 中国における民俗文化政策の動態的研究

研究課題名（英文） The Dynamic Study on Folk-Cultural Policies in China.

研究代表者

福田 アジオ (Fukuta Ajio)
神奈川大学・外国語学部・教授
研究者番号：60120862

研究代表者の専門分野：人文学（A）

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：文化政策、民俗学、ツーリズム、中国、古鎮、フォークロリズム

1. 研究計画の概要

〔内容〕

本研究は、中国漢族社会の民俗文化政策と、それが民俗文化と住民生活に与えた影響とを、住民と文化政策施策者が相互に関連する状況を通じて動的、総合的に把握する民俗誌的検討を行うものである。

〔目的〕

（1）本研究は、民俗文化全般をホーリスティックにとらえる動的民俗誌を作成することを第1の目的とする。この総合的な動的民俗誌において、従来の研究で注目されてきた「観光」などの特定の影響因子に限定されない、視野を広げた研究が可能となる。本目的に鑑み、長期にわたって集中的な現地調査を執り行い、民俗文化と住民生活の変容に関する網羅的民俗誌を作成する。さらに比較調査により、その現象の特殊性と一般性を検証する。

（2）本研究は、上記の民俗誌データによって文化政策による民俗変容を検討し、日中双方の民俗学界へフィードバックすることを第2の目的としている。本目的に鑑み、民俗誌で得られた精緻なデータをもとに、民俗文化と住民生活の変容の状況と、その変容を生み出した社会・政治・経済的な要因、変容のメカニズムについて、共同研究を行うメンバーで検討し、文化政策の可能性と問題点に関する知見を、日中双方の民俗学界へ提供する国際シンポジウムを開催する。

2. 研究の進捗状況

（1）上記本研究の第1の目的に鑑み、本研究は採択後の3年間で、重点調査地である浙江省衢州地区廿八都、三門源において、平成19年度8月29日～9月7日、平成20年8月24日～9月5日、平成21年12月25日～平成22年1月2日の3次の日中共同調査を実施した。そこでは動的な総合民俗誌を作成するために、調査研究地域の民俗について全般的情報を収集する調査を行い、当該地域の状況を把握するとともに、具体的な民俗文化政策の実施状況と、それともなう民俗文化の変容に関する詳細な調査を行った。

さらに、その重点調査地との比較調査研究を行うために、浙江省杭州市、安昌鎮、南潯鎮（平成19年12月26日～30日）上海・朱家角（平成21年1月5日～7日）、福建省廈門市、泉州市（平成22年3月15日～19日）、日本長野県海野宿（平成21年9月23～25日）で調査を行った。これにより、文化遺産保護政策が地域の民俗文化や地域社会、住民生活へ与える影響に関する民俗誌作成のためのデータを十全に収集することができた。

（2）上記本研究の第2の目的に鑑み、調査収集したデータをもとに平成20年9月3、4日浙江省寧波において、カウンター・パートである浙江省民間文芸家協会と共催で国際シンポジウム『日中無形文化遺産保護論壇』を開催した。また、平成21年9月22日には神奈川大学において、国際シンポジウム『中国および日本における非物質文化とその保護』を開催して、全メンバーが成果の中間報告を行った。これによって、民俗文化と住民生活の変容の状況と、その変容を生み出した社会・政治・経済的な要因、変容のメカニズム

ムについて検討し、文化政策の可能性と問題点に関する知見を、日中双方の民俗学界へ提供することができた。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

〔理由〕

現地カウンター・パートの浙江省民間文芸家協会と現地政府の周到な準備と協力により、現地調査が順調に実施され、民俗誌作成のための十全なデータが蓄積されつつあり、上記本研究の目的（1）に関し、十分に達成されつつあると判断されるため。

また、日本と中国それぞれで成果を公開、還元する国際シンポジウムが、既に2回開催されたことにより、日中の研究者の間での研究内容の検討が深まり、また、それぞれの学界への情報提供が進捗しつつあり、上記本研究の目的（2）に関し、十分に達成されつつあると判断されるため。

4. 今後の研究の推進方策

本年平成22年度は最終年度であり、民俗誌作成に向けての最終調査を行うとともに、その最終成果を作成、公表する。具体的には、（1）浙江省衢州地区廿八都、三門源において、最終補充調査を行い、民俗誌作成のために必要なデータを収集する。

（2）中国民間文芸家協会の協力の下、中国民俗学界の重要拠点である北京で、議論深化と最終成果発表のための国際シンポジウムを開催する。

（3）収集した調査データをもとに、『中国における民俗文化政策の動態的民俗誌』を刊行し、関係学会、機関、地元協力者等に配付する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計23件）

① 萱豊、何謂非物質文化遺産的価値、文化遺産、2009年第2期（総第7期）、106-110、2009年、査読有

② 中野泰、韓国民俗的保存和活用的現在時—以江原道束草地区的龍王巫儀為例—、民間文化論壇、2009年第6期、91-96、2009年、査読有

〔学会発表〕（計14件）

① Yutaka Suga, Substituted Sacred Place, American Folklore Society 2009 Annual Meeting, 2009.10.24, Boise Centre, Boise, Idaho, USA

② 萱豊、何謂非物質文化遺産的価値?、中国民俗学会2008年度年次大会、2008.12.27、

中国・天津

〔図書〕（計24件）

① 福田アジオ、吉川弘文館、日本の民俗学—「野」の学問の二〇〇年、2009年、306